

春秋庵の門に入て
こゝ先題とらんふ

新ふかくゆく草蒲をききゆく一那

信中村

五葉衣

席上

岩より入梅の蕙の根出し一那

路一

暮ふ戸やまの秋風秋かゆし

戸倉

可明

阿久保山家の古風とか一那

徳同

片居

あふふく月曼の花よりゆきし一那

白雄

白蓮も見体めく居き水くもふ

古懐

うかり火は故の落て亭 破る那

吳水

みく秋は眼鏡のくもりゆき一

金物庵

入門と受て

虎杖庵

夏涼き現より婦人千曲一那

古懐

友門くは守まのこゝ那涼一

那々母坊

吳水

園子鳥砂の門人つりつりて那つ
かゝくもよあまの保いて世物夜と
とふ保ふは雁月中くるまきあふし
まをいつかゝまかゝるま那のく那の
やうのまきて作の教とつらまふら
いふまふらま荆藤のひらみまふら
まふらいつのまきまもままふら
鳥のつらままままままま
十一童のままままままま
つらまもまままままま
のまままままままま
まままままままままま
ままま

樽葉を葉佩る一と酒くふ人

白雄

天明四年端工

信松屋 橋若